

未来のメカニックとスーパーカー。

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「オレの話」を聞け。

第19回は、未来のメカニックについて。クルマ業界を縁の下で支える整備士の育成は、現在進行形で考えるべき課題。社会情勢とクルマの進化につれて変化するメカニックの育成を考える。

TEXT●太田哲也 (Tetsuya Ota)
PHOTO●市 健治 (Kenji Ichi) / ATO

太田哲也の

オレの話を聞け!

学生には賛沢? 高校生がスーパーカー体験

編集担当Kから誘われた。

「専門学校『群馬自動車大学校』が、埼玉県の本庄サーキットで在校生や高校生をスーパーカーに乗せたり、ヴィッツの耐久模擬レースやピットコンテストを開催するんですが、行きませんか?」

担当Kは体験同乗走行に協力する群馬のスーパーカークラブから取材の誘いを受けたらしい。正直に言っ

て、オレとしては学生には賛沢な話だと思っただけで、さほど好奇心はそそられなかった。ただ、取材前はびんと来なくても

現場に向くと得るものがあった、来て良かったと思うことが少なくない。なので誘いはなるべく断らないことにしている。今回もそのパターンだった。

現場にこそ答えがある、アクションせよ!

頼もしい目の輝き

会場の本庄サーキットに着くとすでにヴィッツ耐久レースが始まっていた。参加していたのは群馬自動車大学校と、系列である東京自動車大学校の生徒たち。1チームあたりドライバーとメカニックで10名×6チーム、レースに参加しない生徒も、かき氷や飲み物の屋台を設営し裏方の仕事を行っている。彼らの動きと目の輝きが印象的だ。

今回、オレはゲストではなく取材で訪れたのだが、生徒たちに「写真撮らせてください」と声をかけられた。みんな元気がよく礼儀正しかった。実は当日先生から聞いて知ったのだが、オレは何年か前に「あきらめない。夢チャレンジ」をテーマ



選ばれた在校生によるヴィッツの2時間耐久模擬レースはイベントの華。もちろんドライブだけでなく整備も各チームが担い、猛暑のサーキットにも関わらず皆笑顔で取り組んでいたのが印象的。こうした体験から未来のレースメカニックが生まれるかもしれない。

に専門学校から講演を依頼されたことがあった。それが東京自動車大学校で、そのときも熱心かつ感じがよかったことを思い出した。今回は群馬自動車大学校との合同イベントだったのだ。

私的な話だが、うちの会社ではここ何年か自動車専門学校卒業生を新入社員として採用してきたが、今年も乗り遅れた。その背景には全国的にメカニックが不足してきて「青田買い」が早まっていることが影響

しているようだ。自動車専門学校の就職率は雇用不足だったここ数年でも100%近くの売り手市場だった。その背景としてメカニックが高齢化して引退時期を迎えているとともに、車販の利幅が減ってきた打開策として逆に出店攻勢をかけるディーラーが増えてきたことがあげられる。メカニックを確保しようとするのは1年生の終わりから内定を出していたそう。数ヵ月後に遅れて募集したのでは採れる

わけがない。

未来のメカニックを育てる

であれば自動車専門学校としては売り手市場(高就職率)でホクホクか、と言えばそうでもないそう。群馬自動車大学校校長でもある小倉校長にお話を聞いた。オレンジ色の帽子がキヤラと合っている。

「問題は学校にどうやって生徒を呼

群馬自動車大学校と東京自動車大学校他、数々の学校を経営する学校法人「小倉学園」を展開する小倉社長に話を聞く。このほかに「小倉学園杯」は今年で3回目を数え、「サーキットでの体験走行や車両整備を通じ、学生間及び職員の信頼関係を築く」「高校生にスーパーカーの同乗を体験してもらい、クルマの楽しさを体験する」ことが目的。フェラーリやポルシェを教材として導入するなど、輸入車ディーラーへの人材供給も積極的に取り組んでいる。





ヴィッツによる耐久模擬レースの他に、自動車専門学校ならではの、整備の正確さとスピードを競う「メカニックコンテスト」も実施。テキパキとした作業に周りから大きな声援も飛び、さながら体育会系の大会のよう。

んでくるかということなんです」
全体としてはメカニックを目指す子が減っているからだ。その対策には、①職場環境の改善、②魅力ある学校の実現、が重要となる。
①に関しては、卒業生の7〜8割はディーラーに就職するが、これまでにディーラーメカニックの仕事は「きつい・きたない・きけん」の3Kと思われていた。しかし最近のディーラーの仕事は診断機を当てて故障箇所をチェック、そして部分交換という簡単な仕事となつて、仕事が楽になつて汚れもなく、職場環境の改善は進んでいるようだ。オレとしては交換作業主体のディーラーの仕事より、もっと深く入り込みたいと考える気概を持った若者に期待したいが、全体的には楽を求める若者が主流のようだ。
そして肝心の②。学校としては入校希望者を増やしたいし、なるべく優秀な子に来てほしい。そのためには「魅力で釣る」ことが大切だ。そこで普通の学園祭をやめてサーキットイベントに変更し、成績優秀者の中からヴィッツ耐久模擬レース参加者を選抜することにしたのだそうだ。これは学内での向学効果が高まるだ

ろう。加えて同時開催のスーパーカー同乗走行に参加できるのも大きな魅力だ。
会場には招待されて観光バスでやってきた高校生たちがいたが、彼らは入校資料請求をした「予備軍」で、そりゃあイベントを楽しんでいる先輩の姿を見て、自分たちもスーパーカーに同乗させてもらえば、この学校に入ったら楽しそうだなあとと思うことだろう。
オレも飛び入りでメルセデス・ベンツSLRマクラーレンの横滑り防止装置をカットして運転し、同乗体験のお手伝いをした。隣に乗った彼らの喜び方は尋常じゃなかった。「すごい、すごい」「暴れ馬って感じ」「来てよかった」。

きつと「この学校に来たい」という気持ちが強くなった。クルマ好きの高校生はスーパーカーに乗せればいどころだな(笑)。
同乗した在校生も興奮していた。「同乗走行の抽選で外れちゃったんですけど、先生に土下座して頼み込んで特別にチケットをゲットしたんです」。学園では積極性も評価されるらしい。こんなガッツある子たちならオレだけでなく、どこの会社でも欲しいのではないか。

人材を確保する方法

人材を求めている企業も「人が来ないよ」とか言っていないで、「来る仕組み」を作ることが重要だ。今の子どもたちは条件だけでなく、あの会社に行ったら「楽しいと思えることがある」のを重視する傾向がある。
オレの場合は、うちのインターンやバイトの大学生などに対して、「責任ある仕事を与えられると人は成長できる」という思いから、いつも「フロ」としての仕事の仕方を学べ」ときつく言いがた。でも採用を増や

すには厳しきだけでなく「うちに来ればこんなに楽しいこともあるんだよ」とやさしく伝えるべきだと思つた。
もう耳にタコ状態の「最近の若者のクルマ離れ」について、「困つたものだな」と嘆く声はよく聞かれる。しかし嘆いていないでアクションを起こすべきだと思つた。学園を真似してクルマ関連企業の多くが、若者に「うちに来たらこんな楽しいことが経験できるよ」と人參をぶら下げれば、きつと人材がやってきて、ひいては業界全体に若者が増えるのではないか。
少子化で減つた人数を、1としか金融とか別の業種にとられるのか、クルマ業界に入る選択をしてもらうのかという競争だ。若者が入つてこなければ、業界にとっては死活問題だ。読者の中には自分は業界人ではないから関係ないと思つている人もいるかもしれないが、メカニックが減れば整備代は上がるし、近い将来ヴィンテージカーなど貴重な愛車の維持も困難になるはずだ。
ぜひともクルマに関わる人たちがみんなで、若者がクルマ業界に骨を埋める決断をしてもらえるよう、アクションしようではないか。

社会貢献するスーパーカー

もうひとつ偶然があった。今回イベントに協力したスーパーカークラブ「AXTC」は、実はオレと接点があったのだ。以前オレが群馬県前橋市の町おこしで「夢チヤレンジ」をテーマに講演をしたことがある。そのとき主催者から依頼を受けたAXTCの人たちが、会場だった群馬県庁の前で講演を盛り上げるためフェラーリの展示を行った。その彼らが今回もスーパーカー同乗イベントに協力

していることを現地に来て知つた。オレが興味を持ったのは彼らのマインドだ。通常スーパーカーのオーナーは仕舞い込んで距離を伸ばさぬよう外に乗り出さないケースが少なくない。しかし彼らの場合は講われれば積極的に出向き、見知らぬ高校生も大切な愛車の助手席に乗せてあげる。そして自分たちががんがん走って楽しむ。AXTCの方たちに尋ねてみると、「楽しんでもらえたら自分たちも楽しい」というマインドだ。そう、これは群馬県人の親分肌の県民性もあるのかも。
彼らがそう思つてやっているのかどうかは聞き忘れたが、クルマ好きを増やすことにも貢献しているわけだ。またこういうクルマ好きのマインドを理解した小倉校長の元で育つたからこそ、クルマ関連企業に就職している卒業生たちが企業ブリスを



本誌ではお馴染みの、群馬県のスーパーカーオーナーが中心となって活動しているクラブ「AXTC」が、スーパーカー同乗体験に協力するため本任サーキットに集まった。SLRマクラーレンやスーパーセブン、911 GT3、458 スペチアーレ他、様々なスーパーカーが、順番に在校生や高校生を乗せてコースを走行。同乗体験走行は未来のメカニックを歓迎するためのボランティアで、これこそスーパーカーを用いた社会貢献のひとつと言える。



出店してイベントを盛り上げてもらえるのだろう。それぞれの思惑は違つたとしても、大きな流れとしてクルマ好きの若者を増やすことにつながつている。
一般的には、スーパーカーは社会に役立っていないと思われている。しかし今回、スーパーカーは若者にめっちゃくちゃ笑顔と夢を与えていた。子どもたちの人生を変える力をスーパーカーと、それを愛する者は持っているのだ。ぜひオーナーはがんがん乗って人の目に触れさせて欲しい。

9/23(祝)袖ヶ浦開催! Tetsuya OTA ENJOY&SAFETY DRIVING LESSON with NISSAN

来る9月23日に、太田哲也氏が校長を務めるドライビングスクールが袖ヶ浦フォレストレースウェイにて開催される。当日はスクールはもちろん、日産スカイライン(2.0ガソリンターボと3.5ハイブリッド)を用いた体験試乗会やサーキットタクシーなどプランも各種あり。お問い合わせは事務局まで。また、8月31日には新型メルセデス・ベンツCクラスを教習車両にしたレッスン及び体験試乗&サーキットタクシープランも開催。こちらは開催日が近いのでご希望の方は早めにお問い合わせを。関Tetsuya OTAスポーツドライビングスクール事務局 ln.045-948-5540 http://www.sportsdriving.jp

